

再あっせんは困難

水俣あっ
せん委員会

情勢を当分見守る

水俣市漁協から水俣病関係補償要求の再あっせんを依頼された中村水俣市長と広田同市議は二十三日午前十時すぎ県庁に寺本知事、森永商工水産部長をたずね、地元の意向を伝えるとともにあっせん委員として今後の態度を協議した。しかし漁協側に大幅譲歩の空気がない現在、妥結は困難だとの見通しからあっせんは再開せず、情勢を当分見守ることに意見が一致した。

さきのあっせん打ち切りで苦境に立った水俣市漁協は、当初新日鐵に要求した二億八千万円に固執しないとの考えに傾き、こ

の日松田組合長は中村市長とは別個に森永商工水産部長をたずね、新日鐵が不知火海沿岸漁民や出水市漁民に出した補償額とのバランスがとれば一億八千万円の線は譲ってもいいと伝えて、あっせんの再開を申し入れた。

これに対し森永部長は白紙委任をする考えがあるかどうか、また具體的にどこまで譲歩する考えであるかなど質したが、松田組合長は白紙委任に難色を示し、また金額の点でも大幅譲歩の考えは示さなかった。

これらのことから寺本知事、森永

部長、中村市長らあっせん委員は「情勢に大きな変化なし」としてあっせんを再開しないことに意見の一致をみた。

◇寺本知事の話 情勢が大きく変われば再あっせんということもあるが、きょう(二十三)の段階ではあっせんは無理である。しかし会社側には漁協の意向を伝えたい。地元で別個のあっせん委員会をつくる動きもあるようだが、そうなれば私たちもこの委員会に側面的に協力する。